2022 年 8 月 1 日　No.44（1）

HB通信

編集・発行 /
一般社団法人
ひょうご部落解放・人権研究所

〒 650-0003　神戸市中央区山本通 4-22-25 兵庫人権会館 2 階
TEL：078-252-8280　FAX：078-252-8281
e-mail：blrhyg@extra.ocn.ne.jp　URL：http://blrhyg.org/

所長の諏訪山だより

疑惑あった人が国葬そんな国

参院選の応援演説中に凶弾に倒れた安倍元首相の国葬が 7 月 22 日に閣議決定された。岸田首相は、法的根拠のない国葬の実施を国会で議論することなく、閣議決定で通したのである。首相は「民主主義を断固として守り抜く決意を示す」と、国葬の意義を語るが、安倍元首相ほど民主主義をないがしろにした政治家はいなかったことを考えると、これはブラックジョークとしかいえない。国会での追悼演説を甘利前自民党幹事長が行うこと、国葬を電通が仕切ることと並んで、今年の 3 大ブラックジョークである。

安倍元首相襲撃事件以降、マスメディアでは安倍元首相への評価・礼賛であふれている。「伊藤博文以来、日本に登場した『最大の世界的政治家』だった」（平川祐弘東京大学名誉教授、2022 年 7 月 14 日付産経新聞・正論）、「安倍晋三元首相が銃撃され、亡くなって以来、多くの人と同様、気分の落ち込みが続いている。それは日本という家の大切なお父さんがいなくなってしまったからだ」（同年 7 月 20 日付産経新聞・談話室への 56 歳女性の投稿）。そして、安倍元首相に対する批判は無礼に当たると言わんばかりの主張がまかり通っている。タイトルとしてあげた川柳は、7 月 16 日の「朝日川柳」に掲載されたものであるが、この日は選出された 7 句すべてが安倍元首相に関するもので、これに対して、7 月 20 日の「産経抄」が不謹慎だと批判し、ネットでも炎上したそうである。

モリカケ桜の疑惑や NHK 番組改変問題などに加え、国会審議で野党議員の質問にまともに答えず、「ご飯論法」ではぐらかし、挙句の果てには野党議員にヤジを飛ばす。朝鮮学校を高校無償化の対象から除外して、ヘイトデモを勢いづかせる。従来の政府の憲法解釈を 180 度転換させる集団的自衛権の行使容認を閣議決定で通し、安保法制を強行採決する。街頭選挙演説で、批判の声を上げた人たちに「こんな人たちには負けるわけにはいかない」と叫び、選挙活動最終日には、東京秋葉原で在特会が掲げる旭日旗に囲まれながら選挙戦を締めくくる等々。安倍元首相は、日本の政治を大きく劣化させた。その安倍元首相の国葬が 9 月 27 日に行われる。日本はそんな国なのである。

最後に自作の句を。死してなお分断もたらす元首相。

所長　石元清英

はじめてみよう！

部落問題学習、考え方・実践のヒント（その 13）

当研究所では「これからの部落問題」学習プログラム作成研究会を組織し研究を重ね、2017 年３月に解放出版社より『はじめてみよう！これからの部落問題学習』（2,000 円＋税）を刊行しました。うれしいことにご好評をいただき、2020 年８月、２度目の増刷となりました。当欄では『はじめてみよう！』掲載の 16 のコラムを順次掲載し、部落問題の考え方のヒント、学習実践のヒントをご提供していきます。

（執筆者の所属・肩書は 2017 年３月当時）

▶『「部落差別はもうなくなっているのだから、取り組まなくていい」という当事者に出会った時の対応は？』／宮前千雅子（関西大学人権問題研究室委嘱研究員）

「部落問題学習をしてほしくない」という当事者の声はけっして少なくありません。その際、必ずといってよいほど挙げられる理由が、「部落差別はもうなくなっている」というものです。

このような声を耳にしたときはけっして否定せず、まずは「あなたはそう思われるのですね」などと、いったん受け止めることが肝要です。「それは間違ってますよ」「まだまだ差別はありますよ」などと即座にやり返してしまうと、その人はけっしてあなたに本音を語らなくなるでしょう（ただし同意してしまうのではありませんので、その点にはご注意ください）。

きちんと受け止めることができたなら、そこからがスタートです。以下、三点に絞って対応をまとめていきます。

一点目として、まず学習の意義を伝えてみましょう。部落差別がなくなったのだとしたら（実際はなくなっていませんが）、今後、同じような差別の課題が起こらないよう、そのための教訓としても部落問題学習を進める意義があることを強調するのです。戦争のない世の中をつくるためには、やはり過去の戦争について学習する必要があるのと同じです。戦争を知らない世代ほど、戦争のことを知る、勉強する必要があるはずです。

二点目も、学習についてです。「部落問題学習に取り組まなくていい」と言う当事者の多くは、部落問題を学習することが差別を拡大・再生産するのではないかと考えています。ですから、学習が差別をなくすことにつながることを伝えていきましょう。部落差別がかつてほどの厳しさを伴わなくなってきたのも、同和対策事業や部落問題学習の成果です。

三点目は、発言者の抱く不安に応えるものです。「部落問題学習に取り組まなくていい」と考えている当事者は、やはりいまでも差別があって、現状ではそれが寝ているように見えはするものの、いつ何どき、目覚めるかもしれない、という差別への不安を抱いていることがほとんどです。もし本当に差別がなくなっているのであれば、部落問題学習をしたとしても問題など起こるはずがありません。だからこそ、その不安を受け止め、その不安を軽減するためにも教員であるあなたがともに行動する、という意思を伝えてほしいのです。すなわち、当事者を孤立させない学級づくりや子どもどうしのネットワークづくりなど、あなたのできることを伝えていきましょう。そして「知らない」ことは「差別がない」ことと同義ではなく、「差別をなくす」という具体的な行動には、決してつながらないことを伝えてみましょう。

いずれにせよ、当事者の抱える不安を忘れずに対応していきましょう。同じ「寝た子を起こすな」であっても非当事者のそれと当事者のそれには、大きな隔たりが存在します。その隔たりにこそ、差別の現実があるのです。

本の紹介

『ハヨンガ　ハーイ、おこづかいデートしない？』

チョン・ミギョン著、大島史子訳、アジュマブックス、2021 年 6 月、1,980 円（税込）

本書は、100 万人のユーザーを持ち 17 年間続いた韓国最大のアダルトサイト「ソラネット」を 2016 年に閉鎖に追いこんだ、女性たちの活動と勝利を、事実をベースに描いたドキュメンタリー小説。

盗撮動画やレイプ動画があふれ、掲示板にはレイプ共謀が呼びかけられる、ありとあらゆる性暴力の加害者の巣窟のような「男たちの遊び場」、ソラネット。それを目撃し、「もう許せないという怒りと、とにかく行動しなければという意思だけ」をもって、多くの女性たちが自発的にネット上のグループ「メガリア」（本書では「メドゥーサ」という名前になっている）に集う。いくつものプロジェクトチームを作り、モニタリング、記録、判例調査など、ソラネットを閉鎖させるための様々な活動を繰り広げた。また男性が女性を性的に侮辱する言葉を、逆に男性に使う「ミラーリング」という手法を使って、その理不尽さ、醜悪さを可視化した。リアルな世界でも盗撮防止キャンペーンなどを展開、問題意識を持つ国会議員に献金して激励し、最後には政府と警察を動かし、閉鎖に追い込んだ。

冒頭から展開される性暴力の現場に、怒り、痛み、恐怖、気持ち悪さ……などの感情がないまぜになって胃液と共に上がってきて、最初の 20 頁足らずで読めなくなった。数日経って恐る恐る開いては閉じる、を何度か繰り返した後、意を決して一気に最後まで読んだ。性暴力と女性を侮辱する言葉にあふれるこの小説を最後まで読めたのは、そのおぞましい「現実」を、つながりながら励ましあいながら何とか変えようと葛藤し、もがく女性たちの存在があったから。そして、それは「私たち」と地続きだという感覚があったからだ。後半に出てくる、ソラネットの掲示板に一斉投稿しシステムをダウンさせた「小さな成功体験」と、もう一つの「戦い」のシーンでは涙が止まらなかった。

とはいえ、ハッピーエンドでは終わらない。第 2、第 3 のソラネットが誕生し新たな被害者が生まれているし、ソラネットを支えた土壌も消えたわけではない。被害にあった人たちが救済されたわけでもない。長く続くトラウマを抱えながら苦しんでいる人は今もたくさんいるだろう。それでも、ソラネット閉鎖という「勝利」をかちとった闘いの物語は、「希望」として多くの人たちに届くに違いない。

『根のないフェミニズム フェミサイドに立ち向かったメガリアたち』キム・インミョン他著、大島史子訳、アジュマブックス、2021 年 9 月、1,980 円（税込）

もう 1 冊。このオンラインフェミニスト（＝「オンラインコミュニティや SNS を通じてフェミニズムを語り、行動するアクティビスト」）たちの実際の闘いを記録した本が、本書に続いて翻訳出版された。『根のないフェミニズム―フェミサイドに立ち向かったメガリアたち』。巻末には 2015 年から 2018 年までのタイムラインなどの資料も付いている。本書の作者、チョン・ミギョンは、1990 年代に 20 代の女性たちが中心になって発行したフェミニスト雑誌「if」の元編集長で、この『根のないフェミニズム』に衝撃を受けて本書を書き始めたという。合わせて読むことで本書の背景や「メガリア」に関わった人たちの思いをより深く知ることができると思う。（H）

人権啓発研究第 43 回兵庫県集会

■日　程：2022 年 10 月 23 日（土）13：00 ～ 16：30

■参加方法：①兵庫県立のじぎく会館【大ホール】（定員：200 人）　②オンライン配信

⇒参加費：3,000 円（学生・障害者 1,500 円）※ 討議資料・報告書を含む

③サテライト会場

⇒討議資料代：500 円　※報告書は含みません

■記念講演：「外国人差別、ヘイトスピーチの「現場」を取材して」

講師：安田浩一さん（ノンフィクションライター）

■シンポジウム：「水平社 100 年―これからともに考えたいこと」

パネリスト：北川真児さん、高田大地さん、細田亜矢子さん（50 音順）

コーディネーター：井上浩義さん

■申込方法：FAX 又は WEB で申込。詳しくは、後日研究所ＨＰに掲載いたします。

■申込締切：2022 年 10 月 17 日（月）

■主催：人権啓発研究第 43 回兵庫県集会実行委員会

■問合せ：人権啓発研究第 43 回兵庫県集会実行委員会事務局（ひょうご部落解放・人権研究所）

〒 650-0003　神戸市中央区山本通 4-22-25　兵庫人権会館 2 階

電話：078-252-8280　FAX：078-252-8281　e-mail:blrhyg@extra.ocn.ne.jp

■事務局長交代のお知らせ

高吉美前事務局長の９月退職に伴い、2022 年７月１日付で細田勉が事務局長に就任いたしましたので、お知らせいたします。

【新事務局長よりご挨拶】

７月１日より、高吉美の後を受け研究所の事務局長としてお世話になります。研究所の仕事は初めてなので、楽しみと不安が入り混じっています。一歩前進で頑張りますので、皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いします。　細田勉

人権総合講座学生枠のご案内

学生枠 受講料：500 円（１講座）

締切：希望する講座開催日の前日の正午まで

ひょうご人権総合講座は、部落問題をはじめとするさまざまな人権課題について学び、人権社会確立に資するリーダー養成を目的として開講します。学生のみなさまに限り、１講座単位で受講していただけます！お気軽にご参加ください。

詳しくは HP でご確認ください⇒

事務局から

- 戦時中に国策の京都飛行場建設に動員された朝鮮人労働者が、戦後も暮らしてきたウトロ地区。そこで昨年８月に起きたヘイトクライム（放火事件）の一審判決が京都地裁で８月 30 日に出る。注目したい（H）
- ９月に研究所を退職します。正直、辛いこともありましたが、かけがえのない出会いや、多くの学びがありました。ありがとうございました。（K）
- 仕事をしていると、あっと言う間に終業時間になります。楽しい時間は早く過ぎると言いますが、私は仕事が楽しく仕方ないという仕事人間ではありません。でも早く過ぎます……（Ka）
- 保育所の連絡ノートがスマホのアプリになりました。先生の手書きのコメントからその日の娘ちゃんの様子が目に浮かぶように想像できましたが、スマホで読むと何とも味気ないものです。（ひ）